

福岡女大家政 平松 園江  
九州学園福岡女短大 ○森川 義子

1. 紙おむつは使い捨てる性格から旅行外出時ほか乾し場の狭い時人手不足の時または梅雨期乾燥の悪い時の利用に便利で、今後その利用度は増すものと考えられる。市販の紙おむつを使い使用上の欠点を調べ、さらに着用状態、尿便量の1回量の測定を行ない、紙おむつを作製するのに必要な基礎条件と使用法についての基礎的要素を明らかにしてゆくことを意図している。今回は市販紙おむつの吸水、衛生加工効果(アンモニア産生菌抑制)について検討した結果を報告する。

2. 試料は市販紙おむつ4社5製品を選んだ。それらの素材構成は濾過層、吸水層、防水層にわけられ、吸水層は大きくわけてクレープ紙とパルプの2種が使われている。厚さ、重量、吸水、衛生加工効果のいずれも3層をふくめて測定した。衛生加工効果については、加工の効果があがるために濾過層の紙のみについても調べた。厚さは読取顕微鏡とシックネステスターにより、重量吸水量は粗試料は油槽式粗天秤で小試料(2 cm × 2 cm)は直示天秤で秤量した。衛生加工効果は既報乳児用衛生用品の防菌効果測定と同様にした。

3. 結果はパルプ入りの方が厚さ重量の平均値が大で、分散も多い。吸水は荷重 0, 12.5g/cm<sup>2</sup>, 25g/cm<sup>2</sup>, 125g/cm<sup>2</sup> の状態で測定し各製品の特徴が認められた。衛生加工効果は殆んど認められず、菌接種せぬ試料で、菌接種 control と同じ pH 変化をしアンモニア産生菌が付着していると認められる物もある。衛生加工紙は今後検討を要す。